

泣こうかい？ 飛ぼうかい？

泣くよかひつつ飛べ！

これが私の生きる道

日向琴子

■PROFILE 日向琴子 (ひゅうが・ことこ)

大阪生まれの奄美諸島の離島育ち。22歳で漫画家デビュー。漫画家の他にもコラムやグラビア等など幅広く活躍中。代表作は、ぜったいドキドキする本当にあったナイショの恋とH(講談社)など。

「私って、好奇心が人一倍強  
く色々な事に興味を持ちちゃっ  
て、ついつい色々な仕事に手  
出しちゃうから、いつも仕事に  
追われてて休みなんて滅多に無  
いんですよ!」

漫画家の『日向琴子』さんは、  
本業の他にも、雑誌などにコラ  
ムを執筆したり、またグラビア  
モデルやラブホテル評論家など  
各方面で幅広く活躍している。



そのあたりの事を伺うと、

「漫画を描く上で、恋愛話は不  
可欠でしょ? そうなると、やっ  
ぱりラブホテルの事情には詳し  
くなってくるんですよ。その事  
を出版社の人に話したら面白が  
られて、どうせなら私自身が水  
着姿でラブホテルを誌面で紹介  
しようって事になっちゃって、  
気が付いたらグラビアのモデル  
やラブホテル評論家としてのお

仕事も沢山戴く事にな  
っちゃって:。」

これらの仕事を続ける  
事で、作品作りにも  
活かせるという軽い  
気持ちで引き受け  
たのだが、女心を理  
解できているいない世  
の男性達の現状にジ  
レンマを感じる事も  
「男の人にとって、

ラブホテルとはHす  
るだけの空間でしか  
無いから、ホテル選  
びに関しても適当っ  
て人が多いみたいだ  
けど、愛する彼女の  
気持ちを考えてなら  
たまには良いムード

のホテルに連れてってあげるべ  
きじゃないかな? じゃないと、

彼女が愛想を尽かしちゃいます  
よ! ホント、そう考えると世の  
中のカッパルの為にもラブホテ  
ル評論家は、自分辞められそう  
にありませんよね? (笑)」

そんな彼女は、ライフワークと  
して性感症やエイズに関する  
予防啓蒙活動も行っている。

「レディースコミック等では、  
どうしても性交シーンの描写は  
避けられないんですけど、執筆  
する者としては読者の方々にも  
性感症やエイズに付いても、  
正しい知識を認識して戴く事も  
義務の様な気がするんです。」



ポスターや中学校の保健の教科  
書等にも、彼女が描いた挿絵が  
多く使われているらしい。一見、  
何の脈絡も無く、ただ興味を示  
した複数の職種を手広くこなし  
ているだけかと思いきや、全て  
は『漫画家・日向琴子』の信念  
に基づいた思想で繋がっている  
事が理解出来た。

「思い立ったら即行動。一度し  
かない人生だから、自分自身が  
納得出来る様、常に全力で走り  
たい!」

自信に満ちた表情でハッキリ答  
える彼女に、エールを送らずに  
は居られない。そんな気持ちに  
させられた取材だった。

(取材: 松田遊人)